

テニス部110周年の輝かしい歴史

国際教養大学理事長・学長 中嶋 嶺雄
(元東京外国語大学長・硬式庭球部長)



このたびは東京外語硬式テニス部が創立110周年もの歴史を刻まれたとのこと、昨秋の記念の集いのご成功とともに、まことにおめでとうございます。一口に110年といっても、明治、大正、昭和、平成と激動の同時代史をかいくぐっての110年であり、まさに慶賀に値する歴史的な歩みだと申してよいでしょう。

テニスといえば、用語にはフランス語が多いようですが、高校生時代に正課としてフランス語を習い、大学もフランス語で受験した私は、フランス革命の初期に出てくる「テニスコートの誓い」という故事に惹かれたことがありました。フランス貴族の遊戯として広まったというテニスが日本に入ってきて間もない頃に、東京外語のテニス部が創立されているのですが、110年前の1900(明治33)年は、当時の神田区錦町に移った高等商業学校附属外国語学校が東京外国語学校と改称さて独立した翌年であり、まさにわが国最古の大学テニス部の一つだといってよいのではないのでしょうか。

このような歴史と伝統を有する東京外語テニス部の部長に私が就任したのは、戦後初代のテニス部長であられ、私の中国語の恩師の鐘ヶ江信光先生が例の大学紛争直後の1971(昭和46)年4月に東京外国語大学第4代学長に就任され、1974(昭和49)年には長い間のテニス部長のポストを私に譲られたからでした。私は部長としての職責を十分果たしたとはいえませんが、テニス部の皆さんと夏休みにしばしば一緒に、尾瀬に近い片品村や富士山麓の山中湖などの合宿に参加したことがよい思い出になっています。そのお蔭で、いま私が学長を務める秋田の国際教養大学は目の前に県立競技場があって、素晴らしいテニスコートが20面もありますので、ときどきテニスの上手な外国人の教員に誘われることもあるのですが、最近が多忙にまぎれてほとんどコートに行かれないのが残念です。

最後に東京外大硬式テニス部を常日頃に支えていただいている東京外国語大学テニス倶楽部の鐘ヶ江有道会長をはじめとする会員の皆様、厚く御礼申し上げます。

東京外語 硬式庭球部

110年史 1900~2010